

4 鎭川上・中流地域の弥生集落

井上 太(富岡市教育委員会)

(1) はじめに

鎭川上・中流地域の弥生時代の遺跡の調査は、県内でも早い時期に開始された。まず昭和37年、甘楽町立第一中学校の校庭において、後期の集落遺跡である**笹遺跡**の発掘調査が県立博物館によって実施された。昭和40年には、鎭川流域の外縁部にあたる碓氷郡松井田町の上人見向原遺跡が、やはり県立博物館によって調査され、中期の再葬墓跡が確認されている。昭和40年代後半頃からは高度経済成長の社会状況の中、この地域においても開発事業に伴う緊急調査が多くなり、富岡市中高瀬遺跡・田篠塚原遺跡等が発見されている。

50年代後半に入ると、各市町村教育委員会に埋蔵文化財担当の職員が置かれ、開発事業に伴う発掘調査に対応する体制となり、弥生時代の遺跡の調査例も多くなった。富岡市では黒川小塚遺跡・七日市観音前遺跡、甘楽町では稲荷北遺跡、妙義町でも下高田島畑遺跡等があげられる。隣接地の安中市でも、県内初の中期初頭の集落跡である**注連引原Ⅱ遺跡**が調査された。

上信越自動車道の建設に伴う発掘調査が開始されると、昭和62年以後平成3年までに、弥生時代の遺跡の発見・調査例が激増した。富岡市では**南蛇井増光寺遺跡**・**中沢平賀界戸遺跡**・**原内出Ⅰ遺跡**・**上丹生千足遺跡**・**中高瀬観音山遺跡**・**下高瀬寺山遺跡**・**内匠日影周地遺跡**・**内匠上之宿遺跡**、下仁田町では**下鎌田遺跡**、甘楽町では**天引向原遺跡**・**天引狐崎遺跡**・**白倉下原遺跡**、妙義町では**八木連荒畑遺跡**・**八木連狸沢遺跡**・**古立中村遺跡**・**古立東山遺跡**等と、調査例が蓄積されていった。

この間、富岡市教育委員会と甘楽町教育委員会が実施した調査でも弥生時代の遺跡例は多くなった。工業団地造成に伴う富岡市一ノ宮押出遺跡、ほ場整備事業に伴う上丹生市子塚・山ノ上遺跡、甘楽町では下小塚遺跡、下小塚Ⅱ遺跡、三ツ俣遺跡等が発掘調査されている。さらに平成5・6年には甘楽町南小塚遺跡、富岡市黒川東八木遺跡、宇田阿曾岡・権現堂遺跡等が調査された。

(2) 主な集落遺跡の概要

これまでに調査された弥生時代の遺跡のうち、中期も含めて主要な集落遺跡について概要を紹介しておく。

① 笹遺跡

甘楽町小川から笹にかけての段丘面上に広がる遺跡である。このうちの南東部の一隅が校庭とされて、昭和36年に調査された。

弥生時代の遺構は、後期の竪穴住居跡4軒が発見されている。出土遺物をみると後期の初めから終りの時期までの土器が認められ、さらに引き続き古墳時代から奈良時代のほぼ全般にわたる土器や住居跡もみられる。弥生時代後期から始まり、古墳時代以降まで長期に継続した集落跡である。さらに報告書によれば、近接地に弥生時代中期の遺跡も存在する。

② 稲荷北遺跡

甘楽町笹の笹ノ森古墳の北側に位置しており、昭和62年、住宅団地の造成に際して調査された。

後期の竪穴住居跡10軒程が検出されている。出土土器は樽式土器と赤井戸式土器系統の土器が混入しており、後期でも終末期の集落跡とみられる。

③ 天引狐崎遺跡

甘楽町天引の丘陵上に立地する。上信越自動車道に伴い調査された。

後期の住居跡が40軒検出されているほか、方形周溝墓4基もこの期のものとされている。

④ 天引向原遺跡、白倉下原遺跡

甘楽町天引・白倉の丘陵上、甘楽パーキングエリア周辺部にあたり、上信越自動車道に伴い調査された。本来一つの遺跡とみられる。中期では前半から後半にかけての土坑10基が検出された。後期は住居跡18軒で、後半から終末期にかけての時期である。

古墳時代以降も継続して集落が営まれ、前期の住居跡から小型の珠文鏡が出土している。

⑤ 下小塚・下小塚Ⅱ・三ツ俣・南小塚遺跡

甘楽町白倉地内の丘陵上で、上信越自動車道に隣接する場所で発見された。町営の文化会館等の施設の建設に先立って、平成2年から5年にかけて調査された。調査年度や字名で細かい呼称が付されているが本来は一つの集落である。

弥生時代の遺構は、中期では埋甕や土坑がわずかに発見されている。後期に至ると住居跡が合計で90軒以上に達し、大規模な集落となる。樽式土器と赤井戸式系土器の混じる終末期のものが多く、全体の三分の一以上が焼失住居であるという。十王台式土器が1点出土しているほか、鉄鏃2点、銅釧、さらに古墳時代の住居跡からの出土ではあるが、銅戈の破片も出土している。

⑥ 小塚遺跡

富岡市黒川の、高田川沿いの自然堤防状の微高地に位置する。富岡バイパスの建設に先立って、昭和56年に調査された。中期後半の竜見町期の環濠集落の一部が発見された。竪穴住居跡7軒のほか、炭化した榎を出土した貯蔵穴も7基検出された。遺構の分布は環濠内に散在しており、遺物からみても短期間の集落であったとみられる。

⑦ 南蛇井増光寺遺跡

富岡市南蛇井の中沢川右岸の平坦部に立地する。上信越自動車道に伴い調査された。中期は竜見町期の竪穴住居跡4軒、土坑・埋甕が検出され、太型蛤刃石斧・偏平片刃石斧等も出土している。

後期では竪穴住居跡181軒、方形周溝墓2基等が検出され、初頭から終末期の全体にわたる大集落であったことが判明した。遺物では赤井戸式系統の土器が多くみられ、石鍬が17点と多数出土したほか、石包丁も1点出土している。次の古墳時代前期には住居跡はみられず、集落は続かないようである。

⑧ 押出遺跡

富岡市一ノ宮坂井の、丹生川に沿う低地後背部の緩やかな北斜面に位置する。平成元年、県企業局の工業団地造成に先立って調査された。

後期の竪穴住居跡が5軒検出されている。後期でも中頃の時期の集落で、終末期には続かず、いったん集落は断絶しているようである。次の古墳時代前期石田川期には再び集落が形成される。竪穴住居跡の中には長辺が10m以上で、鉄鏃・鉄槍・ガラス玉・環状石斧等の遺物を出土した大型住居跡があるほか、南関東系の土器の出土もみられる。

⑨ 市子塚・山ノ上遺跡

富岡市上丹生中山にあり、妙義町との境界の山地から続く台地上に位置する。土地改良事業に伴い、平成元年に調査された。

検出された竪穴住居跡は2軒のみであったが、幅・深さとも2m程の環濠の一部も発見されている。時期は後期の終末期で、樽式土器と赤井戸式系の土器が混じる。環濠は大規模であるが、比較的小規模な短期的な集落跡であったとみられる。

⑩ 阿曾岡・権現堂遺跡

Ⅶ 特 論

富岡市宇田の高田川と丹生川の合流地点付近に位置する。平成6年、土地改良事業に伴って調査された。

中期の竜見町期から後期の終末期まで続く集落である。その後も、古墳・奈良・平安時代の全般を通して集落が継続するとみられる。

中期の集落は平地部の権現堂にあり、環濠集落である。住居跡は4軒が検出された程度で、小集落であったとみられる。後期に入ると、検出された住居跡116軒と集落の規模が拡大し、後半には独立丘陵の阿曾岡上部にも多数の住居跡が営まれる。特に終末期には、丘陵上の東半部に密集した状況がみられ、焼失住居の数も非常に多い。しかし次の古墳時代前期には丘陵上は、40m級の前方後方墳2基、方形周溝墓1基が築造される墓域となり、集落は再び丘陵の下部に営まれている。

⑪ 古立東山遺跡

妙義町古立の丘陵上に立地する。上信越自動車道に伴って調査された。

中期後半の竜見町期の住居跡が10軒発見され、太型蛤刃石斧2点・石戈破片1点が出土している。石戈は同じく妙義町八木連西久保遺跡でも発見されている。

後期は前半の時期で、4軒の住居跡が検出され、磨製石鏃の工房跡とみられている。

⑫ 古立中村遺跡

東山遺跡の南東、同じく丘陵上に立地し、上信越自動車道に伴って調査された。

中期後半では住居跡1軒と土坑、溝跡が検出されている。後期は後半から終末期にかけての住居跡11軒、方形周溝墓1基が検出されている。

⑬ 八木連荒畑遺跡

妙義町下八木連の丘陵上に立地する。上信越自動車道に伴って調査された。

後期の終末期の住居跡が11軒検出されている。樽式土器とともに赤井戸式系の土器のほか土師器も混じっており、古墳時代の遺跡と考えた方が適当と思われる。同様の時期の遺跡として富岡市野上の鞆戸原Ⅰ・Ⅱ遺跡があげられる。

(3) まとめ

これまで、ある程度内容の知られる鎭川上・中流域の弥生時代の主な遺跡について概要を記してきた。ここで主眼とするのは後期の遺跡の動向についてであるが、ここでは中期からの動向を含めてまとめておく。

当地域で弥生時代の集落遺跡がみられるのは、現在のところ中期後半の時期からである。中期前半の岩櫃山期の遺跡としては、富岡市七日市観音前遺跡があるが、集落跡は発見されていない。

中期後半の竜見町式土器の時期にいたると各所に集落が成立してくる様子がうかがえる。富岡市小塚遺跡、同南蛇井増光寺遺跡・同権現堂遺跡・同中高瀬観音山遺跡・妙義町古立東山遺跡等で、集落全体が調査された例はないが、この時期は住居が10軒程度の集落跡であったとみられる。小塚遺跡や権現堂遺跡では環濠も検出されており、弥生文化が定着する時期と考えられる。また、丘陵上に立地する例も多い。

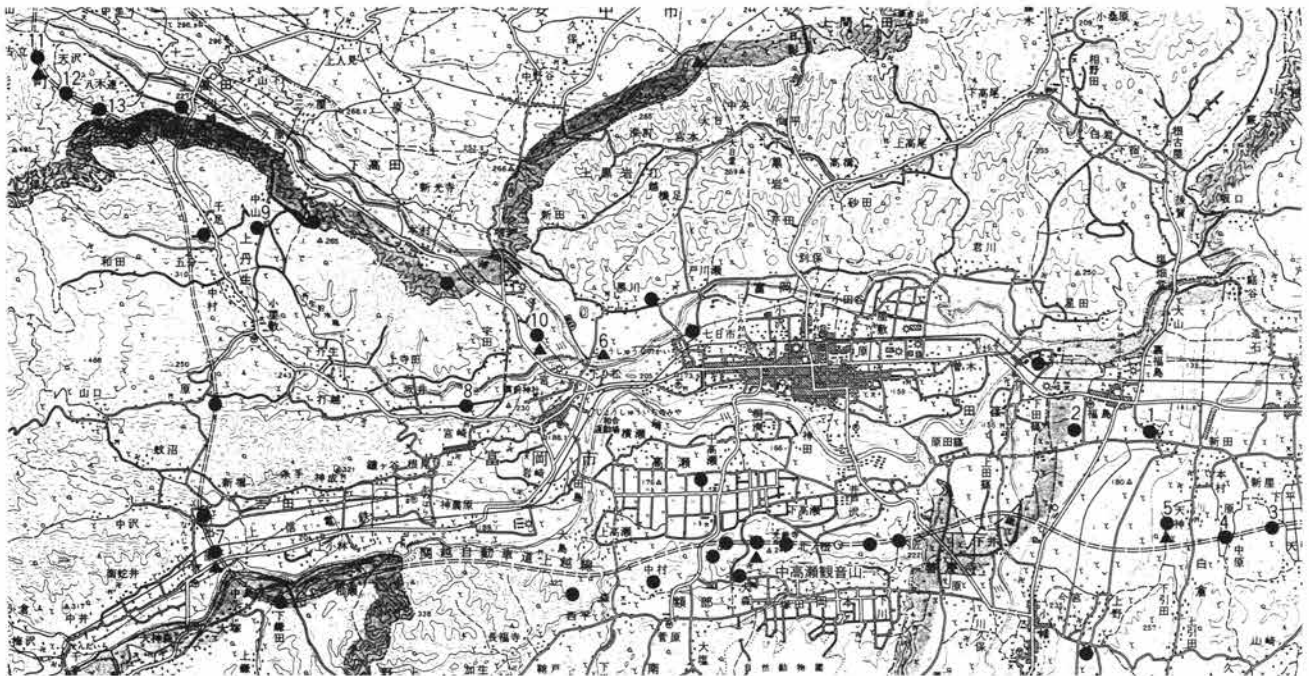
次に、後期の樽式土器の時期には、平地部はもちろん丘陵上にも集落の数が急激に増加する。集落の規模には明らかに大きな差異が現われ、特に大規模な集落が点々と立地する様子がうかがえる。中高瀬観音山遺跡、南蛇井増光寺遺跡、阿曾岡・権現堂遺跡、下小塚・下小塚Ⅱ・三ツ俣・南小塚遺跡等で、これらの周辺には同時期に小規模な集落群も存在するようである。このような大規模集落は、中期の段階から存続している集落が多く、後期には拠点集落へと成長したと考えられる。これに対し、小規模な集落群は後期でも短期的なものが多い。また、これらの拠点集落の分布は、鎭川上中流域内の要所に一定の間隔をおいて立地

しており、後期には、これらを中心にしたいくつかの小地域圏が成立していたと考えられる。

特徴的な出土遺物では、鉄鏃(中高瀬観音山遺跡・押出遺跡・下小塚遺跡)、鉄槍(押出遺跡)、銅釦・銅戈(三ツ俣遺跡)、ガラス玉(押出遺跡)等の出土があり、中期後半の時期にも石戈(古立東山遺跡・八木連西久保遺跡)、磨製石包丁(中高瀬観音山遺跡)、磨製石斧(南蛇井増光寺遺跡・古立東山遺跡)といったものがみられ、当地域の弥生社会の発展段階を示していると考えられる。

鎬川上中流域の弥生時代の遺跡の調査・発見例は、この10年程の間に急激に例数が増加した。しかし、当地域の弥生時代の細かい研究はこれからという状況であり、本稿の内容は大雑把な見通しという程度である。今後、地域の土器編年を確立し、各遺跡の詳細な分析を行っていく必要がある。

紙数の都合で、参考文献・資料等の掲載は割愛させていただくが、甘楽町の遺跡については甘楽町教育委員会社会教育課文化財保護係長小安和順氏にご教示をいただいた。



鎬川上・中流地域の弥生集落

▲中期 ●後期